

KEYAK!

5月号

新しい園生活が始まったばかりなのに、春はタンポポ、タケノコ、ヒヨコ、鯉のぼりなど季節特有の事象がかぶさるようにやってきます。本当はこれらひとつひとつを子どもたちとゆっくりのんびりやりとりしながら関わっていきたいものです。どうしても広く浅くっぽく過ぎ去ってしまうのは否めません。保育（子どもが育つために）はきっかけとタイミングが大切です。わかりやすく言えば、きっかけがなければ何も生まれてはこないでしょうし、タイミングが悪ければ彼らの脳裏には焼きついてくれない（忘れてしまう）でしょう。これがうまくいくと子どもたちはやりとりも広がり、他の子の意見も聞くことでひとつ深く考えられるようになっていきます。

何かひとつでも興味や関心が持てれば、それを『楽しみにする』ことができます。ヒヨコが育つのを、先生や友だちとあそぶのを、お弁当を、うちに帰ることを、でもいいのです。年少さんもやがて園の環境に慣れ、園に来ることを楽しみにできるようになってほしいです。

「すぐ目の前にあることを、ものを、楽しみにできるからこそ明日がくるのです。」

そのためには、まず大人側が「たのしみ〜！」なことをことばや表情でいっぱい伝えていけるといいと思っています。しあわせを態度で示すのはちょっと難しいかもしれませんが、楽しみなら態度で示そうよ！ほらみんなで手をたたこう。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・ 一人遊びを充分楽しむ
- ・ 友達の名まえやマークに興味をもつ
- ・ みんなでいるところで遊んだり、見たり聞いたりすることの楽しさを知る
- ・ 園生活の流れがわかり、身の回りの始末を自分でやろうとする

4歳

- ・ 園生活のリズムになれて活動や遊びにすすんで参加しようとする
- ・ 自分の意見が言える（うれしいことや悲しいことを自分なりの言葉で表す）
- ・ 相手のことも聞こうとする

5歳

- ・ 自分がしたいと思う遊びをくりかえし楽しむ
- ・ 今日、明日何をするという短期の目的だけでなく、比較的長期の見通しが漠然とでもわかって行動できる
- ・ 互いに言いたいことが言える（認め合い）